

H-15 下肢難治性潰瘍患者に対する TCM400による経皮酸素分圧 モニターの試み

増田剛太郎¹⁾ 田尻 孝¹⁾ 徳永 昭¹⁾
松田範子¹⁾ 奥田武志¹⁾ 高崎秀明¹⁾
森山雄吉²⁾ 恩田昌彦¹⁾

〔¹⁾ 日本医科大学第一外科
²⁾ 同第二病院消化器病センター〕

【目的】難治性潰瘍（褥創，糖尿病性，静脈性）には虚血または虚血再灌流障害が基盤にあり，虚血により組織低酸素状態が惹起される。高気圧酸素治療（HBO）を難治性潰瘍に適用する際に，治療効果が期待できる症例の抽出が必要である。経皮酸素分圧（tcPO₂）測定は治療効果予測に有用である。多チャンネルtcPO₂モニターの使用経験を得たので報告する。

【対象・方法】正常成人男性5人（46-76歳）および難治性潰瘍患者5人（DM2人，静脈性1人，ASO2人）を対象とした。TCM400（Radiometer Copenhagen）を用い，左前胸部を対照として，左右下肢（患者の場合は健肢と患肢）に電極を装着した。tcPO₂は，原則として仰臥位で測定したが，時に仰臥位から座位に転換した。測定は①1ATA，21% O₂吸入②1ATA100% O₂吸入③2.8ATA，100% O₂吸入④1ATA，100% O₂吸入時に行った。HBOは加圧15分，維持60分，減圧15分とした。

【結果】(1) 健常人；60-70mmHg（1ATA，21% O₂），120-150mmHg（1ATA，100% O₂），120-150→200-250mmHg（加圧中100% O₂），250-350mmHg（2.8 ATA，100% O₂），150mmHgまで低下（減圧）。部位による差はない。(2) 患者；①前胸部は健常人と差がない。②健肢は健常人（健常部）と同レベルから患肢レベルまで幅がある。③患肢0-25 mmHg（1ATA，21% O₂）。0-30mmHg（1ATA，100% O₂）。加圧時，上昇例，不変例あり。2.8ATA，100% O₂で，無反応例あり。減圧によって上昇例あり。

【考察】TCM400は対照を含めた多チャンネルで測定できる。操作は簡便で，データはPC解析される。tcPO₂測定はHBO治療効果を予測する上で有用と思われる。

H-16 当院における突発性難聴の治療 —ステロイドとプロスタグラン デインの治療成績—

望月優一郎 寺尾 元 三邊武幸

（東京都立荏原病院耳鼻咽喉科）

今回我々は当科を受診した突発性難聴症例に対する治療で，ステロイドを使用した群とプロスタグランディンE1（以下PGE1）を使用した群での聴力改善における治療成績について比較・検討を行った。

【治療プロトコル】当院では突発性難聴例にたいして，入院中ステロイド薬（Betamethasone）を点滴静注（8mgより2mgまで漸減），もしくはPGE1（Alprostadi）を点滴静注（60μg×5日間）に加え，高気圧酸素療法（HBO：2気圧×10回），星状神経節ブロック（2回/日），ATP，ビタミン薬，循環改善薬の内服を行っている。

【対象】1994年10月より2002年6月まで当科で入院治療を行った突発性難聴症例112例112耳である。これらをステロイドを使用した群（101例101耳）とPGE1を使用した群（11例11耳）に分割し検討した。ステロイド群とPGE1群の平均年齢，初診時聴力レベルの分散は等しいことを確認した。

【結果】

- ①すべての症例について退院時・聴力固定時でそれぞれ判定すると，ステロイドとPGE1の間に，聴力改善における有効性には有意差がなかった。
- ②すべての症例を発症から治療開始までの日数が，2週間以内の群（新鮮群）と2週間以上の群（陳旧群）にわけて，同様の判定をおこなった。新鮮群および陳旧群で，ステロイドとPGE1の有効性には有意差がなかった。
- ③ステロイドの有効性について退院時および聴力固定時で判定した。退院時および聴力固定時で，新鮮群は陳旧群より有意に回復が認められた。
- ④PGE1の有効性について退院時および聴力固定時で判定した。退院時および聴力固定時で，新鮮群と陳旧群の間には有意差はなかった。